

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4070502440
法人名	株式会社 深田商店
事業所名	グループホーム 小倉南ケアセンター和が家
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区津田1丁目5-16 (電話) 093-474-2118

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年1月27日	評価確定日	平成21年2月22日

【情報提供票より】(平成20年1月19日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人		
職員数	17 人	常勤	12人, 非常勤	7人, 常勤換算	15.2人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分
------	-------------------

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)20,000円	
敷金	有(140,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,200円		

#### (4) 利用者の概要(1月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	北九州総合病院 / 木村内科外科医院
---------	--------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム小倉南ケアセンター和が家は、鉄筋2階建ての2階部分に2ユニットで運営し、住宅街と会社が立ち並ぶ一角に位置している。1階には同一法人が経営するデイサービス・居宅介護支援事業所が併設しており、日常的に交流が行われ入居者だけでなく職員にも刺激がある環境となっている。法人の理念として、「高齢者が地域で和やかに安心して暮らしていけるために必要な社会福祉事業」として位置づけ、2ユニットそれぞれ基本方針を掲げている。ウッディな造りで明るく家庭的な暖かさを感じるリビングルームからは、入居者の楽しそうな会話が聞こえてくる。職員は入居者のその日の状態を把握し、相手の立場に立ってケアを行い、年間で行っているイベントやレクリエーションを通じて、その中から生きがいを見つけ、楽しい生活を送っていただけるように支援している。運営推進会議には、家族を含め地域の自治会長の協力が会議録から確認できる。入居者の個性を尊重し、毎日を笑顔で過ごせるように職員一同で努力しているグループホームである。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査では、地域との付き合い 市町村との連携 事業所の多機能性 重度化や終末期に向けた方針の共有 日常的な外出支援への取り組みが今後の取り組みにおいて改善事項として挙げられていた。いずれにおいても改善に向けて努力と体制づくりを行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価を分担し、それぞれが評価の意義を理解し取り組んでいる。評価結果から明確になった課題について、職員参加で改善策や必要に応じて介護計画の見直し・改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームでの取り組みを報告している。家族の参加が多く、活発な意見交換が行われている。かかりつけ医や自治会長・地域包括支援センターからの提言もあり、検討結果を記録し、業務の改善に活かしている。また、運営推進会議は、家族や地域の方々より、意見や質問を受ける機会としても活用し、より良いサービス提供を目指して取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	運営推進会議に多くの家族の参加があり、要望等が述べられている。家族の意見・苦情は、報告書により全職員へ伝達し、改善策を考え、繰り返さないように努力・サービスへ反映している。運営推進会議は、家族の意向や要望等を把握できる機会としてとらえ活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、町内会等の地域の行事に積極的に参加し、地区の自治会の運動会・夏祭り等に参加し地域との交流を図っている。今後は地域密着型サービスの役割として認知症の理解を育む等、地域へ向けて情報を発信していくことが期待される。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は入居者や地域の方に説明できるように明文化されており、ケアセンター和が家の独自の理念として「高齢者がいつまでもなごやかに安心して暮らす為に必要な社会福祉事業」を掲げ、グループホームの基本方針・各ユニットのコンセプトをつくりあげている。また、誰にでも容易に理解できる内容になっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は朝の申し送り時に毎日理念を唱和し、全員で共有している。申し送りの時間やミーティング・研修の際に「日々のケアの中で具体的にどうしていくか」等を話し合い、理念にそったケアやサービスの提供を目指して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会等の地域の行事に積極的に参加し、地区の自治会の運動会・夏祭り等に参加し地域との交流を図っている。今後は、地域密着型サービスの役割として認知症の理解を育む等、地域へ向けて情報を発信していくことが期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価表を分担し、それぞれが評価の意義を理解し取り組んでいる。評価結果から明確になった課題について、職員参加で改善策や必要に応じて計画書の見直し・改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームでの取り組みを報告している。入居者・家族の参加が多く、活発な意見交換が行われている。かかりつけ医や自治会長・地域包括支援センターからの提言もあり、検討結果を記録し、業務の改善に活かしている。また、運営推進会議では、家族や地域の方々より、意見や質問を受ける機会としても活用し、より良いサービス提供を目指して取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターを中心に同業者間で相談や情報交換を行っている。今後は、市町村との連携により、研修情報の把握や地域に向けてのグループホームの理解等、連携を活かした取り組みに期待したい。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護・成年後見人制度については、相談があれば説明し、また相談機関を紹介している。パンフレットも玄関に置いてあり、制度活用の入居者もいる。市の主催する研修にも参加し、理解を高めるため報告会等も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの生活の様子や健康状態等は、面会時や電話にて報告・連絡している。毎月の請求書や金銭管理は面会時に報告している。四季を通してホーム便りを作成、ホームでの暮らしぶりがわかるように郵送している。また、数名は携帯電話を所持し、職員の支援を受けながら家族と話す等、いつでも、話したい時に話せるように支援している。職員の異動は、運営推進会議で伝えている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に多くの家族が参加があり、要望等が述べられている。家族の意見・苦情は報告書により全職員へ伝達し、改善策を考え、繰り返さないように努力・サービスへ反映している。運営推進会議は、家族の意向や要望等を把握できる機会としてとらえ活かしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑え、離職による入居者のダメージを防ぐために、働きやすい環境づくりに努めている。離職となった場合は、職員でカバーしダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員に対しても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢を理由に採用から除外することがないように努めている。採用の際には、本人が持っている個性を引き出せるように担当業務を決め、勤務しやすい条件の検討や環境づくりに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	「接遇マニュアル」「人権マニュアル」を作成し、何時でも職員が見られるようにしている。また、カンファレンスの中でも接遇等の研修を行っている。今後は更にカンファレンスや勉強会の中で、人権教育を強化していきたいと考えている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	新しい職員については新人研修を行い、業務については先輩職員が付き実施指導を行い、知識や技術のレベルアップに努めている。外部研修にも参加し、資質の向上を目指す目標を掲げ、カンファレンスにて伝達研修も行っている。研修報告書にも皆が目を通し、研修の周知を図っている。		今後は、年間の研修計画を立案し、内部研修・外部研修・カンファレンス等の資料を整備し、職員のレベルアップや希望に合わせた計画的な研修の実施を期待したい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	近隣の施設やグループホーム6事業所との交流会があり、ホーム長が毎回参加している。情報交換を行い、相互研修の場となっている。今後は、グループホームのネットワークにより、職員同士の交流等も含め、ネットワークを活かした取り組みに期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	事前に本人・家族と面談を行い、多くの会話を持ち、その中から入居者の得意なことやこれまでの生活歴を把握し、約1週間程度の体験入居等により、本人が意欲的に暮らしていただけるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者は、「人生の先輩であり、豊富な経験の持ち主である」を念頭におき、多くの会話や行動を共にし、職員は入居者の智恵や経験を学び、日々の暮らしの中で支え合う関係を大切にしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の些細な会話の中から気づいたことを職員で話し合い、入居者が何を望んでいるか、傾聴することを心がけている。その中で家族の協力が必要な時は、協力していただけるようお願いしている。記録に残すことで全職員に周知できるようにしている。今後はセンター方式等も検討してはいかがだろうか。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の身体状況や生活状況を正確に把握するための手順を定めてアセスメントがなされている。介護計画を作成する際には、本人や家族の思いなどを把握し、計画の中に反映している。計画は職員参加のもとで策定され実施状況の把握も行っている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間を設けているが、その時の入居者の状況の変化に応じて見直しを行っている。状態変化があった場合は、その都度変更している。計画の確認は一連の過程が記録されており、評価・見直しが組織的に行われ、継続的に取り組んでいる。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>深田グループは社会福祉事業を運営理念に掲げ、グループとして多様な事業展開を行っている。同建物の1階のデイサービスや居宅介護支援事業所とは日常的に連携があり、入居者はデイサービスの行事に参加したり、健康管理には通院介助等も行われている。出来る限り要望に答えることが出来るように柔軟なサービス提供に努めている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医との連携をとり、本人及び家族の意思を尊重し、2週間に1回、受診が受けられるようにしている。月2回の往診もあり、歯科医の訪問もある。看護記録も整備され、体調不良や状態変化等の相談も行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	終末期に対する対応方針が定められ、重度化により看取りの支援も行っている。本人の希望・家族の要望等々の情報は全職員で共有している。何度も話し合うことで要望にそえるように努めている。健康管理と感染対策もしっかりできており、排泄サポートや口腔ケアのサポートもよくできている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	カンファレンスや研修・接遇マニュアル等を参考に一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーの保護に全職員で配慮し、入居者に接している。個人情報も大切に扱う習慣を身につけている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の体調や希望に合わせて、本人のペースで生活ができるように支援している。日々の観察の中で個別の生活リズム・得意分野を把握し、意欲的な暮らしができるように支援している。入居者には月1回の訪問理美容に来てもらい、お洒落を楽しんでいただく等、その人らしい暮らしの実現に努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	それぞれの入居者の体調により、おかずの注ぎ分け・食器拭き・料理の下ごしらえなど、出来ることは職員と一緒にしていただいている。職員と入居者は一緒に会話もはずみ、楽しい雰囲気です。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	毎朝バイタルチェックを行い、体調に変化がないかを確認後、入居者に声をかけ、同意の上入浴を行っている。入浴時は、体に異常がないか、全身のチェックを行っている。また、ゆっくりと湯舟に浸かり、リラックスしたところで日常での不満や不安なことがないかをうかがっている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者や家族の声に耳を傾け、「どのような暮らしを望んでいるか、何が好きなのか」を把握し、入居者の力を見極めながらお膳立てしたり、サポートする等、入居者の能力を引き出すように支援している。「今日は ができた」と張り合いや喜びを持っていただけるように生活リハビリ等も入居者の意向に配慮し支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者のその日の身体状況に合わせて、近くに散歩やゴミ捨て・ベランダに出て外の空気を感じてもらう等、個別の支援を行っている。入居者の高齢化が進み、身体レベルの低下もあり、個別の対応を重視した支援を行っている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	グループホームは2階にあり、窓から出る等危険なので鍵をかける場合もあるが、鍵をかけない努力を行っている。入居が間もない方は、特に見守りを強化しながらブザーやその他の工夫で鍵をかけない方向で検討している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	マニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。非常時の避難経路を確保し、緊急時に職員が誘導できるようにしている。日頃より、地域との関係づくりに努めており、今後は、協力・参加が得られるように、現在、自治会と話し合いながら進めている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	献立については1階のデイサービスの栄養士に相談している。美味しく食べてもらえることを前提に水分量や食事は、常に記録し確認している。また、なかなか水分摂取が出来ない入居者においては、出来るだけ飲んでいただけるように工夫している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間では、気持ちよく過ごしていただけるように清潔感に溢れている。入居者と職員は、季節の飾りつけや壁面ギャラリーなど季節感を取り入れながら、家庭的な空間づくりに努めている。2階からの眺望もよく、ベランダにはベンチもあり、プランターは季節に応じて花を植え、自然を感じながら、ゆっくりとくつろげるように空間の工夫がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者の思い思いの部屋づくりをされている。昔の写真や大切な人の写真が飾られ、これまで使われていた愛着のある品物も置かれている。プライバシーに配慮し、本人が居心地よく過ごせる空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			